

# 2022 Bionic Jack Racing FIA-F4 選手権レースレポート

【FIA-F4 選手権シリーズ第9戦・第10戦】



スポーツランド SUGO (宮城県：3.586km)

9月17日(土) 予選、決勝レース1：晴れのち曇り／ドライ 入場者数：8,300人

8月18日(日) 決勝レース2：晴れ／ドライ 入場者数：17,000人

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110

#81 卜部 和久 BJ Racing F110

岩澤はレース2で予選9番手から  
5位までジャンプアップ！

苦戦を強いられた卜部、  
この悔しさは今後の糧になる。

7大会・14戦で競われ、激戦で  
知られる FIA-F4 選手権シリーズに、  
高木真一監督が指揮を執る、



Bionic Jack Racing は第4大会から2台体制とし、継続参戦の岩澤優吾、そして新加入の卜部和久を走らせる。開幕戦から入賞を重ねてきた岩澤だったが、前大会の鈴鹿サーキットでは、レース2で追突されてレース続行ならず。スタートで、そして序盤のうちに順位を上げていただけに、7戦で記録が止まったのは惜しまれるが、予選やレース1の低迷気味から脱却している最中だっただけに、勢いは取り戻していた感があった。ランキングは4位に落としてしまったものの、3位との差はごくわずか。振り返ると、そして何より初優勝が望まれる。

卜部は第1戦で果たしていた入賞が、それ以降なかなかできずにいたが、前大会では8位、10位と初めての連続入賞を果たしていた。もちろん、納得の結果ではなからうが、自信に結びついていたのは間違いない。より順位を上げて、さらなる飛躍のきっかけとして欲しいところだ。

## ◆予選

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110：13番手・9番手

#81 卜部 和久 BJ Racing F110：23番手・23番手

第5大会の舞台は東北、宮城県のスポーツランド SUGO。アップダウンに富んだ高速テクニカルコースと知られる一方で、オーバーテイクポイントは多いとは言い難くもある。その意味で、予選の重要性は他のサーキット以上に高い。最終コーナーの内側にある、カートコースこそ走り慣れている卜部ながら、本コースでのレースは今回が初めて。しかし、岩澤ともども事前にテストを行っている。本番での適応力が試される大会にもなりそうだ。

今回も専有走行は木曜日から行われ、最初のセッションは予選同様、2組に分けられた。岩澤、ト部ともにB組での走行となり、岩澤は1分25秒605で3番手と、上々の発進となるも、ト部はトラブルでノータイム。続いてのセッションは全車混走となり、岩澤は1分25秒816で5番手、そしてト部は1分25秒886で7番手につけた。

金曜日にも最初のセッションは2組に分けられ、ここが台数、温度的にもスピードを測る機会となった。ここで岩澤はトップからコンマ2秒遅れの1分24秒793で3番手につけ、ト部は1分25秒029で7番手。続いてのセッションも混走となり、決勝を見越したセットだったこともあり、岩澤はトップからコンマ5秒遅れの1分25秒630で7番手だったが、コンスタントにタイムを刻んでおり、その点では不安はなさそうだ。その一方でト部はSPコーナーの立ち上がりでコースアウトし、その際に足回りにダメージを負って、このセッションを1周も走れず。一抹の不安を残すこととなった。

そして迎えた、土曜日早朝の予選。秋晴れのSUGOはコンディションも良好、岩澤は計測3周目に1分25秒台に乗せるも、すでにトップは1分24秒台としており、もう一伸びが欲しいところ。ところが、練習では出せたタイムが出せず、ベストタイム1分25秒026では7番手、セカンドベストタイム1分25秒116では5番手に甘んじてしまう。

一方、ト部はより深刻な状況に陥っていた。ハンドリングの悪化によって、1分25秒台を出すのが精いっぱいだったからだ。ベストタイム1分25秒677、セカンドベストタイム1分25秒878は、ともに12番手と、下位グリッドに回らざるを得ず……。

#### ◇岩澤優吾

「きのうまでは、けっこういい感じで進んでいたんですが、予選になって何かバランスがあんまり……。ちょっと前が入らなくなってしまって、それでタイムが伸びなかったですね」



#### ◇ト部和久

「急に今日の朝から車がグリップしなくなって、自分の車の弱いところが大きく出るようになってしまいました。曲がらないし、進入はフラフラで。だから、進入と出口のバランスが悪いという感じがあります。ん受けないコースですが、しっかりセットを考えて、上がっていかこうと思っています」



## ◆決勝レース第9戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110 : 12位

#81 卜部 和久 BJ Racing F110 : 18位

レース1は17周もしくは30分の戦いとなり、スタート進行は13時15分から開始された。岩澤は13番手、卜部は23番手からの発進。ここからどこまで順位を上げてくれるか。岩澤はポジションキープからレースを始め、まずは相手のミスを待つ展開が続く。



後続は徐々に引き離していたが、オーバーテイクは予想どおり困難を極めたからだ。そんな中、5周目の4コーナーで止まった車両があり、セーフティカーが導入される。バトル再開は10周目。リスタートを決めて前に出たいところだが、前を行く相手のガードも固い。それでもなんとか12周目にはパスして12番手に浮上。だが、それ以上とはいかず、12位でのゴールに留まった。

一方、卜部はオープニングラップのうちに19番手まで浮上。が、これがレース1のハイライトとなってしまう。前の車両には遅れず続くのだが、抜くまでの決め手を欠いていた。11周目に先行車両の脱落によって18番手には上がるが、自力でのオーバーテイクの機会は再び訪れず。レース後には険しい表情を見せていた。

### ◇岩澤優吾

「前には追いついて、バランスはだんだん良くなっていったんですが、やはりなかなか抜けなかったですね。明日はもうちょっと前からスタートできるので、表彰台行けるぐらい頑張ろうと思います。車はだいぶ改善されてきて、予選はコンディションが全然合わなかったんですが、レース1に関しては変わってきたので、次こそは」



### ◇卜部和久

「えげつないぐらいアンダーで、向きが変わらないから、ちょっとモノコックがおかしくなっちゃったかと。今からフロア外して、いろいろ見てみます」



## ◆決勝レース第10戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110：5位

#81 卜部 和久 BJ Racing F110：19位

日曜日早朝のSUGOは、まさに秋晴れに恵まれた。レース2もまた、11周もしくは30分での戦いだ。岩澤は9番手から、そして卜部は23番手からスタートする。

岩澤のスタートダッシュは絶妙。まずは2台をかわし、さらに1コーナーでは大外刈りを決めて6番手に浮上する。そして卜部もふたつ順位を上げて、21番手からレースを開始。しかし、ハイポイントコーナーで多重クラッシュが発生。セーフティカーがまたしても導入され、勢いに任せて、さらに前へ行く機会は奪われる。バトル再開は7周目。ともにリスタート後の逆転は許されなかったが、前とは離されていない。だが、その後の岩澤は後続のプッシュが激しく、応戦一方となって間隔が広がってしまう。それでもガードはしっかり固めて、逆転は許さない。一方、卜部には12周目、ようやくポジションアップが許された。そして、さらにトップを走っていた車両がリスタート違反のペナルティとして、ドライビングスルーが課せられたことで、14周目にはひとつずつポジションアップ。岩澤も卜部も我慢を強いられた週末ではあったが、前を行く車両を見て得られたことは、決して少なくなかったはずだ。次大会は2週間後の10月1～2日にオートポリスで開催される。今大会の悔しさを糧として、さらなる飛躍を果たすことが望まれる。

### ◇岩澤優吾

「予選を失敗しちゃったのが、すべてでした。が、タイヤをだいぶ使っちゃって、後半はきつかったです。いちばんミスできないレースを耐えるのが、本当につらかったです。次のレースに向けては、いい経験にもなったので、ちゃんと次は予選を決めて、少しでも上に行けるように頑張ります。オートポリスはレース、初めてなんです。テスト行った時の感触は悪くなかったので、だいぶ先の先を予測しながら、準備していきたいと思います」



### ◇卜部和久

「変なアンダーが出て、リヤがびくともしてくれませんでした。練習でトラブルが出たりして走行時間も短かったせいで、セットを煮詰められず、それが痛手になりました。次のオートポリスでは必ずポイント獲得します」

